たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち
市会議員団控え室 TEL.740－1111（内線4020）
直通FAX759－1811
黒田みち事務所 TEL.795－4760

市民の声を 毎回発言

議会に送り出していただいて4年。議会のたびに、市民のみなさんの願いや住み良い川西市になるようにと一般質問で提案。今回は、そこで取り上げて実現したことを掲載しました。

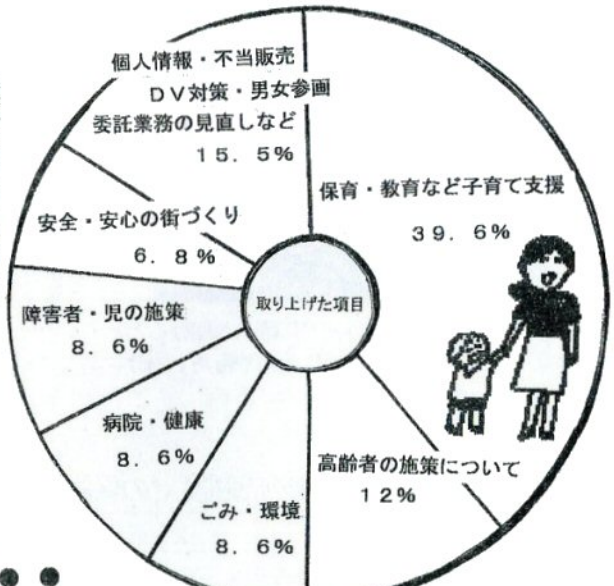
一般質問で4年間に取り上げた項目（58項目）をグラフにしています。

保育士経験を活かして 子育て支援策は毎回提案

☆乳幼児医療費、川西市独自支援（請願採択）

☆市立栄保育所廃園計画、2年延期に

☆留守家庭児童育成クラブ土曜日開設・待機児童ゼロ



健康・福祉の充実に 向けても毎回提案

☆高齢者交通費助成（請願採択）

☆市立川西病院が救急指定に

後発医薬品ジェネリックの使用66品目（5．3%）が88品目（7．1%）

☆歯周病歯科節目検診実施

☆障害者自立支援法による食費（650円）の軽減と施設への支援策

バリアフリーなど 安心・安全の街づくりも

☆日生駅エレベーター設置

☆R173号、東畦野地区 信号機設置（決定）

☆DV相談日増設

労働相談で寄せられた声を きっかけに

☆委託業務の見直しや是正

その他、その時々の問題を 取り上げて・・・

JR事故では、学校や地域で聞き取り調査をし、充分な相談、対応を長期的に行う様要求。

こんなことができました！

・・地域の声に支えられて・・

4年間 議会で毎回一般質問（58項目）

（16回）　（06年3月は総括質問）

高齢者を中心に不当販売に巻き込まれないように市民へのPR活動を強化することや個人情報保護の観点で市としての取り組みを点検。

ごみや環境問題でも

☆紙の資源化を実施

リサイクルを進めることや広域ごみ処理施設建設に伴う基準値を超えた鉛汚濁水の流出、光化学オキシダントへの対応強化、住民への情報公開、説明責任を要求。

契約における談合疑惑の問題についても追及しています。

市民の税金が市民のくらしを支えるものになっているかという点では、中央北地区の皮革工場への補償費（89億円）などのむだ使いや高すぎるごみ処理場の土地や建設費の問題を、総括質問や各委員会で追及しています。

住民には、上下水道料の値上げや高齢者や障害者の福祉金、福祉医療制度の市単独分、難病患者の見舞金の廃止など弱い者いじめ。「公平」という言葉で幼稚園・保育所保育料の値上げ、私立幼稚園の就園奨励費市単独分廃止というような、行財政改革SR作戦をやめさせるよう、全力でがんばっています。

「税金の使い方を市民優先に変えよう」と固い握手
ストップむだ！フレッシュかわにしの会きたの紀子さんと

こまめの決意

議員になって、毎月配布している「たんぽぽだより」も48号を迎えました。

財政が厳しいのは、どの自治体も同じ。でも、高齢者交通費助成をばっさり休止したり、乳幼児医療費助成を何もやっていないのは、阪神間7市1町で川西市だけでした。

選挙前ということもあるのでしょうか、どちらも一歩前へ進むことができました。これは、市民のみなさんの声が大きくなり、広がってきたからだと確信しています。もっと大きくなって、交通費助成は完全復活を、乳幼児医療費はお隣の伊丹市をめざして具体化させるような幅広い手つなぎが必要です。

私は、これからも全力で情報をお伝えし、市民パワーがもっともっと大きく強くなるように頑張りますので、みなさまのご指導、ご支援よろしくお願いします。

乳幼児医療費の無料化へ

市民の運動でやっと踏みだす

ことし6月議会に新日本婦人の会から、〇歳児全員無料化を求める請願が提出されました。

黒田みちは、①小学校入学前の全員対象にしても予算は年間7300万円（市の予算の0.16％）②〇歳児だけだと約2000万円③阪神間で助成のないのは川西市だけ、と採択を主張しましたが、「継続審査」になりました。

黒田みちは、9月議会であらためて「無料化すべき」と訴え、別途、提出された同じ主旨の「請願」も共に採択・可決されました。

これまでも くり返し無料化を要求

黒田みちは、これまでも乳幼児医療費の無料化を要求して、議会でくり返し発言してきました。

「医療費が無料になることは、どんな境遇に生まれても医療にかかることができる、そのことが保障され、子育てに絶対の安心になっていくわけです。川西もぜひ乳幼児医療費の無料化に取り組むべきと考えます」（03／9議会）

「3歳児未満まで尼崎・西宮・芦屋もやっている、宝塚・三田も少しちがいますが、やるようになった。伊丹も、この夏、ゼロ歳児については完全無料だということを、その自治体で決めてやっている。なぜ川西市ができないのか」（05／9月議会）

子育て支援策として どの自治体もやっている

「少子化」が深刻になっていますが、背景には長時間労働や低賃金・雇用不安定とともに子育てやこどもの教育に「費用がかかりすぎる」という問題があります。

そのために多くの自治体では独自に予算措置を講じて、乳幼児医療費助成・保育所や学童保育の拡充など、不十分ながら「子育て支援策」を打ち出しているのに比べて、川西市の「支援策」は大きく立ち遅れています。

市民の運動でやっと川西市も「乳幼児医療費の無料化」に踏み出しますが、あくまでも第一歩だけ。今後とも制度の拡充のためには市民の監視と声を大きくしていくことが大切です。

市民の願いをまっすぐに議会へ届けるとともに、毎月、欠かさずに駅頭や街角で国政を語り、議会報告をつづけています。

乳幼児医療費助成制度での保護者負担　近隣市比較　06.7月 現在

	0 ～ 2 歳児	3 ～ 6 歳児
川西市	<県基準のままで、市の独自助成はなし> 1日700円（低所得者500円）月2会まで、3回目以降は無料 入院は月2800円（低所得者2000円）。＊1～6歳児は所得制限あり	
伊丹市	通院・入院ともに無料（小学生も入院無料）	
宝塚市 三田市	通院・入院ともに無料	700円（低所得者500円）月2回まで。入院は無料。
尼崎市 西宮市 芦屋市	通院・入院ともに無料 ＊三田市と芦屋市：1歳児以上は所得制限あり	川西市と同じ

”人の命も金しだい”の医療大改悪

10月から高齢者の窓口負担さらにアップ

自民・公明の内閣が国民や医師会の反対を押しきって決めた医療大改悪によって、この10月から高齢者の窓口負担増がのしかかってきます。

6月の住民税、国保税の大幅アップや介護・年金の切り捨てが重なって、いよいよ「所得の格差」が「命の格差」に直結する社会に向かっています。

アメリカや大企業の言いなりで、国民には社会保障の切り捨てと増税をすすめる政治しかできない勢力に、国政でも地方政治でも、選挙で厳しい審判をくだしましょう。”

10月22日投票の市長・市会議員選挙は、そうした審判をくだすチャンスです。

負担増と医療の切り捨て

この10月から70歳以上の「現役並み所得者」の窓口負担が、『表』のように引き上げられます。

入院では、70歳以上で療養病床に入院する人の食費・居住費が保険適用外になります。長期入院患者（住民税課税）の場合、入院費は月3万円値上げで9万円に。これも2008年4月から対象が65歳～69歳に拡大され、その場合の入院費は月13万を越えてしまいます。

また、08年4月からは、75歳以上の高齢者だけの医療制度を新たにつくり、全高齢者から保険料を徴収（年金から天引き）することも決めています。

『表』　高齢者の患者負担は・・・

	現行	06.10～	08.4～
～69歳	3割	3割	3割
70～74歳	1割	1割	2割
現役並み所得者	2割	3割	3割
75歳以上	1割	1割	1割
現役並み所得者	2割	3割	3割

高齢者の「現役並み所得者」とは

厚労省は「現役並み所得者」として、「課税所得145万円以上の高齢者」としています。この「145万円以上」の範囲が、老年者控除の廃止、公的年金控除の縮小や定率減税の半減などで広がりました。高齢者に負担増を押しつけ、「現役並み」の範囲を税制改悪で拡大していく卑劣なやり方は許せません。

政府は、負担増を正当化するために「高齢者と現役世代との公平」をいってますが、病気になりやすく、治療にも時間がかかり重症化しやすい高齢者の負担は、現役世代より低くおさえることこそ公平です。